

「目から  
ウロコが落ちる」  
そんな体験をしたくて  
研究を続けています。



## Role Model 05

## 石丸 聡子

大学院先端科学研究部助教

理学部 → 大学院（修士課程） → 大学院（博士課程） → 大学（研究員） → 大学教員

**Profile** いしまる・さとこ 1998年に富山県の高校を卒業後、金沢大学理学部に入学。2002年に同大学を卒業後、同大学大学院自然科学研究科（博士課程）に進学し、2007年に博士（理学）の学位を取得。学位取得後は金沢大学で研究員として在籍し、2011年に熊本大学に着任。

### 学生時代は勉強と遊びをほどほどに両立!

地球にはたくさん火山があります。火山は地球深部（海だと7~8km以深、陸だと30~40km以深）にあるマントルの岩石（かんらん岩）が融けてできるマグマが地表に流れ出る場所です。私は、その「マグマのもと」のかんらん岩の解析から、マグマのでき方や地球ができてから現在までにどのように進化してきたのか、などを探る研究を行っています。

大学3年生までは、講義を受けながらほどほどに遊ぶ……というとても普通の生活をしていました。時には友人と夜通しでテレビゲームをしたり、早朝ボーリングをしたりということもありました（笑）。卒業研究を始めた4年生あたりからは、講義のない日は朝9時10時頃に登校、夕食を生協ですませて夜11時頃に帰宅……と、1日のほとんどの時間を大学で過ごしていました。それでも早く作業を終わらせて映画のレイトショーを観たり、空いた時間に漫画喫茶へ好きな漫画を読みに行ったりして、勉強と研究と遊びをうまく両立していたように思います。

### 決着がついていないものを終わりにしたくない気持ちがモチベーションに

研究者になったきっかけは……。「気が付いたら研究者になっていた」というのが実際のところ。研究が好きだったのが大きなポイントだと思いますが、その時に学んだことや研究していたことを「まだ決着がついていないのに、このまま終わりにするのはもったいない」と思い、様々な機器分析やデータ解析を続けました。また、両親や指導教員からのサポートも、これまで研究を続けられた大きな要因となっています。

研究の魅力はやはり「誰も知らないこと、気が付いていないことを明らかにできる」ことだと思います。学生時代に、ある先生が「研究をしていて目からウロコが落ちるという経験が何度かあった」とおっしゃっていました。実はそういった経験はまだ体験していないので、「目からウロコが落ちる」とか「全て腑に落ちる」という経験をしてみたい!という思いも、研究のモチベーションになっています。

### 家事分担・便利家電の活用で時間を「作る」

プライベートでは家庭があり、子どもがまだ小さいので、あまり長く大学に滞在することはできません。そのため、もどかしい思いをすることも多々あるのですが、「今できることをやるしかない」と割り切っています。忙しい時期は、子どもが寝た後に自宅で仕事をすることもあります。子どもが早く寝てくれないと「仕事をしたいのに」とストレスを溜めてしまう原因にもなるので、できるだけ自宅



トルコでの野外調査風景。野外で“生の石”を見るのは楽しいです

では仕事をしないようにしたいと思っています。

子どもと向き合う時間は減らせないため、夫との家事分担は当然必須。夫婦ともに協力しあいながら、また家事の時間をできるだけ減らせるように便利家電を使って時間を有効に活用しています。

研究者を目指す学生には「興味のあること、やりたいことにどんどん挑戦してください」ということをお伝えしたいです。興味があることには「継続する力」が宿っています。「目からウロコが落ちる」ような体験をともにできる日を心待ちにしています!

#### 宝ものは?

特にないかと思いましたが、これがなくなると耐えられないという意味では、やっぱり家族かなあ、と思います。

便利家電を使いこなせば仕事と家庭の両立も大丈夫!